水害ボランティア ～昨今の豪雨災害等に学ぶ準備・心得（作業編）～

昨今の近隣地域で起こった関東・東北豪雨災害。伊勢崎市においても過去の歴史を振り返ると、たびたび水害に見舞われてきました。令和元年台風19号による被害は記憶に新しいところです。そこで今回は、身近に起こり得る水害に関する支援者としての準備・心得等をご紹介します。

【被災者住居の後片付け、敷地内や住居内の汚泥の除去を想定した準備・心得】

【安全と衛生】 無理せず、ケガなく

粉塵

まれに短期間で病気を起こす恐れあり。

→粉塵用のマスクやタオルでカバー

熱中症

大量の汗や通気性の悪い服での作業・睡眠不足等に注意！

→水分・塩分（水だけじゃダメ）・休憩

破傷風

深い刺し傷に注意！

→けがをしないように長袖・手袋・長靴・安全靴を装着する

活動後は、うがい・手洗い！

目に泥がよくないので真水があると便利。

※ボランティア活動保険は事前に加入しておきましょう

◆ **廃棄するものでも、家族にとっては大切な思い出のつまった物ばかりです。取り扱いには十分配慮しましょう。**

・被災された方の気持ちやペースにあわせよう　・お話しをたっぷり聞こう

・真剣さと笑顔を織り交ぜて

◆ **災害時に想定されるその他のボランティア活動内容**

・避難所における支援　・支援物資の仕分け　・炊き出しのお手伝い

・災害ボランティアセンターの運営に関する支援　など

災害は、いつでもどこでも起こり得る時代。日頃からの備えとして身に着けておきたい知識ですね。支え合いの心を大切にしていきましょう。

資料：NPO 法人レスキューストックヤード / 全国社会福祉協議会より一部引用

■ お問い合わせ ■

伊勢崎市市民部市民活動課（絆の郷内）
〒372-0014 伊勢崎市昭和町 1712-2
TEL 61-6712 / FAX 61-6713
メール katudo@city.isesaki.lg.jp

社会福祉法人 伊勢崎市社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター
〒372-0045 伊勢崎市上泉町 151
TEL 27-5974 / FAX 27-5975
メール volunteer@ise-shakyo.or.jp
伊社協 ホームページ　伊社協 ボランティアメール　公式SNS

ISESAKI VOLUNTEER・SIMINKATSUDOU TSUUSIN Vol.83

いせさき ボランティア・市民活動通信

回覧

R 6.11.1 発行

編集発行：伊勢崎市市民部市民活動課、社会福祉法人伊勢崎市社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター

どなたでも参加できます！

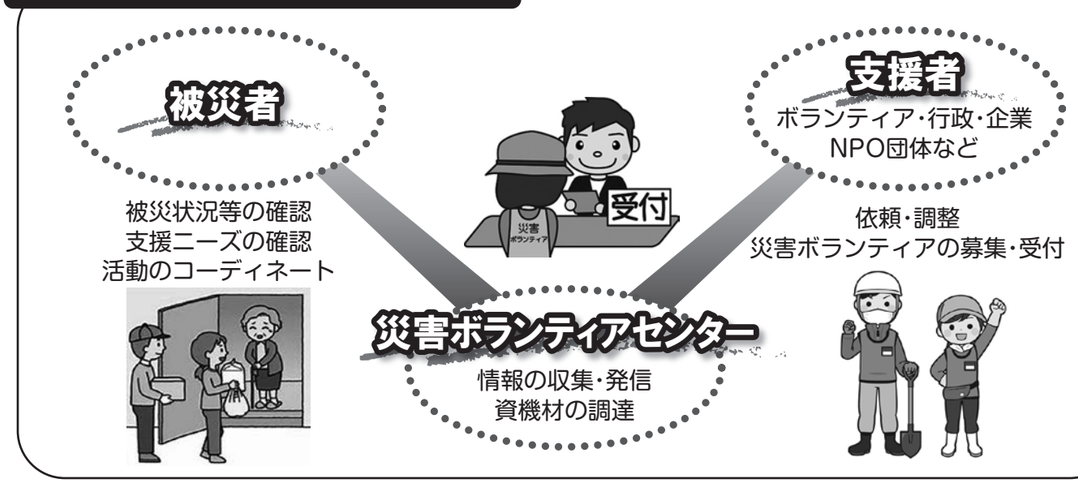
◇「ボランティア・市民活動情報交換会」のご案内◇

昨今、日本列島の各地で災害が多く発生しています。今年の元旦には能登半島地震災害、９月には水害に見舞われました。心よりお見舞い申し上げます。今なお、多くの助け合い・支え合い活動が行われています。

そこで今回の情報交換会では、身近に起こり得る災害に関する支援者としての視点で、実際に能登半島地震災害における災害ボランティアセンターへ派遣された職員の体験談を報告させていただくと共に、行政の立場から日頃の備えとしてのお話し、併せてパネルや物品の展示をさせていただきます。

災害ボランティアについて関心のある方、災害に対する自身への備えとして学びたい方、この機会に是非ご参加ください！

災害ボランティアセンターの役割



日　時　11月23日（土）　10:00～11:30（※受付：9:30から）

会　場　絆の郷　円形交流館　多目的ホール（伊勢崎市昭和町1712-2）

内　容　① 能登半島地震における災害ボラセン社協職員派遣体験談
② 行政より日頃の備えとしてのお話し
③ パネル・災害物品展示ほか

申込み　ボランティア・市民活動センター（27-5974）または市民活動課（61-6712）へお電話で申し込みください。

インタビュー

能登半島地震災害に伴う支援活動として職員派遣された
２人の職員の体験談をお伝えします。

社協ボランティア市民活動センター職員Sさん

Sさんは7月13～19日迄の7日間、石川県輪島市災害たすけあいセンターへ
職員派遣として活動されました。

Q1 現地ではどのような活動をされましたか？

輪島市たすけあいセンター（災害ボランティアセンター）で全国からいらっしゃるボランティアさんの受け入れ、活動先のミーティングや現場説明、車で現地への送迎を行いました。また、被災地域のお宅を訪問し、地震によって家の壁や瓦が剥がれ落ちて発生した災害ゴミの撤去や倒れた家具の運び出しなど災害関係でお困りになっていないか、お会いした方に聞き取りを行い、あわせてセンターの啓発等を行いました。

Q2 活動を通して感じたことを教えてください。

私は輪島市門前町で活動を行いました。地震によって完全に崩れた自宅、4mの隆起によって地形が変わった海岸や漁港、崩壊する恐れがあると判断され赤札が貼ってある誰も住んでいない住宅街などの景色は今後忘れることはないと思います。能登、輪島を元気にしたい！と駆け付けたボランティアさんの心と被災した方の様子に応じて寄り添い、丁寧で安全な活動をされている姿に頭が上がりませんでした。復旧に向けて援助が続く中、まだまだボランティアさんとの支援の伴走が必要だと感じました。

市役所市民活動課職員Mさん

Mさんは３月３日～９日迄の７日間、石川県かほく市へ
職員派遣として活動されました。

Q1 現地ではどんな活動をしましたか？

災害による被害の程度を証明する書面（罹災証明書）を発行するための住家被害認定調査や、窓口にて罹災証明書交付申請受付業務を行いました。

Q2 活動を通して感じたことを教えてください。

災害に伴う支援活動という経験は、自分にとって初めての経験で、不安と緊張もありましたが、支援活動をする中で被災された方と直接接したり、現場を自分の目で見たりすることにより、被災地の状況を詳しく知ることができ、支援活動の重要性を感じました。

昨今の災害が起きた時に報道や紙面で話題にのぼる

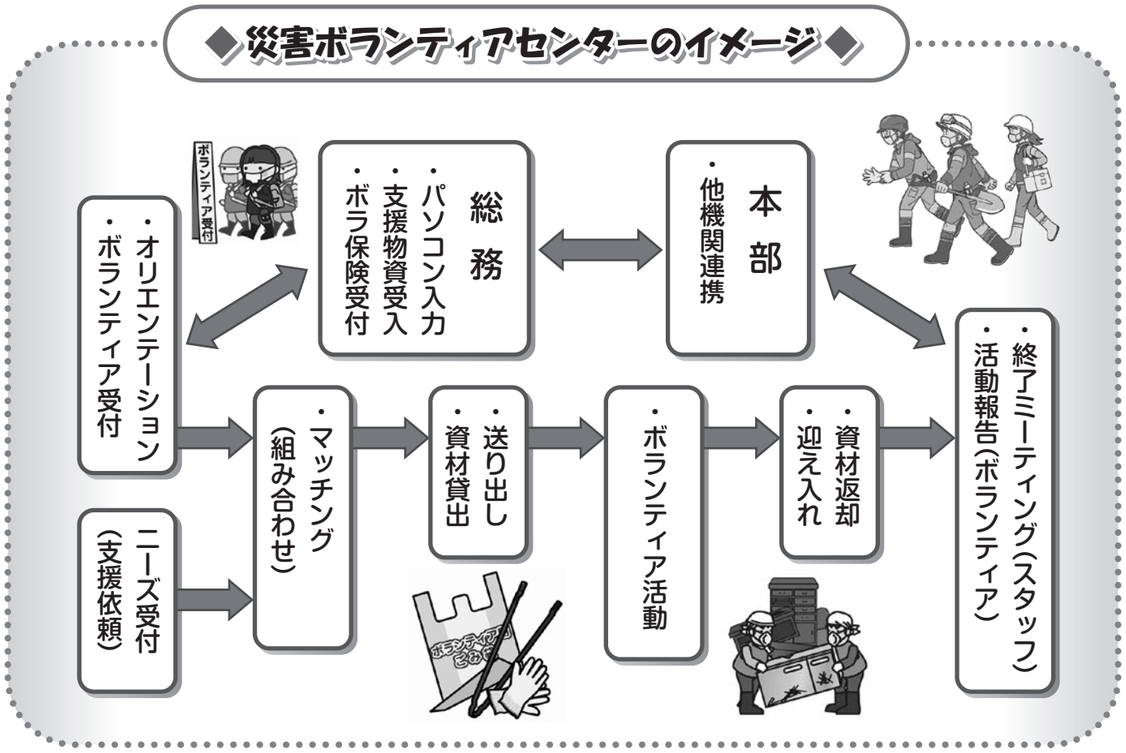
「災害ボランティアセンター」って何？

一般的に、災害発生直後、行政が災害対策本部を立ち上げ、災害対策本部と社協で災害ボランティアセンターの設置について協議し、必要と判断した場合に、社協が災害ボランティアセンターを設置します。

災害ボランティアセンターは、行政及び自主防災組織、青年会議所、関係団体、ＮＰＯ、住民の方々と協力しながら、ボランティア活動を効果的・効率的に被災者・被災地の一日も早い復興のために運営します。

まず、被災者等からのニーズ（作業依頼）を基に、ボランティアさんとのマッチング（ボランティアと作業依頼を組み合わせる）を行い、所定の準備をし、ボランティア活動をしていただきます。活動後は、センターへ報告し終了となります。災害ボランティアセンターのイメージは次のとおりです。

◆災害ボランティアセンターのイメージ◆



伊勢崎市においては、平成26年2月の大雪災害によって「伊勢崎市災害ボランティアセンター」を初めて設置しました。

延べ10日間の開設でボランティアの皆さんの温かいご支援により約70件の支援依頼に対応しました。

主な活動は、雪かき、買い物支援でした。その後も、安否確認や見守りを兼ねた友愛訪問を行うなど支援の輪が広がったことは記憶に残るところです。

また、近隣災害の場合には、ボランティア応援バスを企画し皆で支援に向かったり、遠方災害の場合には、街頭募金活動等を行い、被災地へ義援金として届ける活動を行っています。

そのほか、平時には災害ボランティアセンター設置訓練や、必要な資材を備蓄し、いつ起こり得るかもしれない災害時に備えています。